

令和3年度 東京都立大泉高等学校附属中学校経営計画

1 目指す学校

平成22年に開校し、12年目を迎える本校は、併設型中高一貫教育校として、6年間を通した一貫した教養教育により、自ら課題を見つけて意欲的に学ぶ力を育成するとともに、国際社会にリーダーとして貢献できる資質の高い人材を育成するための学校である。

令和4年(2022年)年度から併設型中高一貫教育校における高校段階からの生徒募集の停止を踏まえ、中学校から中等教育学校前期課程への意識改革を図るとともに「探究活動」を学校経営の柱として位置づけた中高一貫校としての新たな体制を確立して教育活動を推進する。

本校の教育目標である「自ら学び真理を究める、自ら律し他を尊重する、自ら拓き社会に貢献する」に基づき、人間として調和のとれた人材を育成し、都民の期待に応えることができる教育活動を行う。

- (1) 物事の真理を深く考え、筋道を立てて明らかにしていく「探究活動」を学校経営の柱として推進し、主体的・協同的に学ぶことを通して、論理的思考力・判断力・表現力を高いレベルで身に付けさせる学校。
- (2) 様々な課題を自らの目で見極め、何事にも積極的に挑戦・行動することで、課題を解決できる生徒を育て、将来を見通し、国際社会にリーダーとして貢献できる人材を育成する学校。
- (3) 他者を認め、協働して課題解決に取り組むコミュニケーション力を備えた人材を育成する学校。
- (4) 6年間の一貫した教育活動により、言語活動を充実させ、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに個に応じた指導により高い学力を培う学校。
- (5) 令和4年(2022)年度からの高等学校募集停止に伴い、6年間の中高一貫教育をより一層充実させるため各教科の指導計画の見直しと改善を図る。
- (6) 地域や大学、企業と連携した計画的なキャリア教育の実施により、自己の進路実現を図るため正しい職業観や勤労観を育成する学校。
- (7) 教育活動全体を通して、人権尊重の精神を培い、人間としての力を高めていく学校。
- (8) いじめや体罰がなく、生徒がいきいきと安心して生活できる学校。
- (7) GIGA構想による全校生徒が個人端末を利用できる環境のもと、Society 5.0に向けた学習方法研究校として、Teamsを活用した学習支援を有効に活用できる学校。

2 中期的目標と方策

- (1) 6年間を見通した系統的・組織的な探究活動の推進
 - ① 知的探究部を中心とした6年間を見通した系統的な指導計画に基づき、高等学校における知的探究活動「探究と創造(QC)」への確実な接続を目指す。
 - ② 各教科における授業・行事等を通して、探究活動を行なわせる場面を設定する。
- (2) 6年間を見通した組織的な進路指導
 - ① 進路指導部を中心とした6年間を見通した学校運営により、生徒の進路実現・自己実現に向け、各分掌・学年が組織的に機能する体制を構築する。
 - ② 進路指導部が中心となり、学年と連携し、定期考査、外部模試などの結果を分析し、その分析に基づく指導を行う。
 - ③ 組織的な補習・補習や保護者との面談などを実施する。
- (3) 基礎的・基本的内容の確実な定着

- ① 各教科で作成した6年間の指導計画に基づき、生徒の言語環境の充実と基礎的・基本的内容を確実に定着させる。
 - ② すべての教科で体験的な学習や問題解決的な学習、アクティブラーニングを積極的に取り入れ生徒の主体的な学習を促す。
- (4) 生活指導
- ① 6年間の一貫した生活指導により、集団生活における協調性や自律心、規範意識を育成し、基本的な生活習慣の確立を図る。
- (5) 国際理解教育・国際交流の推進
- ① 英語教育推進校として、国際理解教育や国際交流を進めるとともに、中学1年生によるTGG研修、中学2年生による国内語学研修、中学3年生によるオンライン英会話、TGGの利用などを通して改善・充実を図る。
 - ② 国際交流リーディング校、海外学校間交流推進校として、留学生や学校訪問を積極的に受け入れることにより、海外の高校等との交流活動を積極的に推進する。
 - ③ ニュージーランドの学校との姉妹校交流を推進する。
- (6) 令和4年度高等学校80周年記念式典に合わせて12周年記念式典を実施するための準備を進める。
- (7) ICT機器利用の推進
- ① GIGAスクール構想に基づき各教科でICT機器の活用を推進するとともに、Society 5.0に向けた学習方法研究校として、生徒が授業や進路関係においてネットワークと機器の効果的な活用を推進する。
- (8) 令和4年度高等学校募集停止に伴う中学校学級増に対応するため校内組織の見直しを図る。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の取組目標と方策

① 知的探究活動

- ア 高等学校における知的探究活動「探究と創造(QC)」への確実な接続を目指して、中学校段階で探究活動の基礎的なプロセス、必要な知識・ノウハウを体系的に習得させる。
- イ GIGAスクール構想に基づく一人1台個人端末を利用して、Society 5.0に向けた学習方法研究校として、積極的にネットワーク(Teams)を活用する。

② 進路指導

- ア 総合的な学習の時間における探究活動とキャリア教育により、自己についての理解を深めるとともに「10年後の自分」をイメージし、その実現を図るために生徒の発達段階に応じた目標を設定させ、高等学校へとつなげる。
- イ 生徒の発達段階に応じて自己の能力や適性を把握させるとともに、探究活動を通じて大学や研究所と連携を図りながら主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒の希望する進路の実現を図る。

③ 学習指導

- ア 英語、数学において少人数指導を実施することにより基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、発展的な学習も積極的に取り入れることによりより一層の学力の向上を図る。
- イ ティーチャー・イン・レディネス(TIR)など放課後の学習を充実させることで、生徒の個別の学習課題の解決を図るとともに、家庭における学習習慣の定着を図る。
- ウ 課題発掘セミナーを通して知的好奇心を喚起させ、自発的な学習を促す。

- エ 朝読書や読書月間の推進を通して、豊かな情操を培うとともに落ち着いた学習習慣の確立を図る。
 - オ 生徒一人ひとりの学習状況を把握して、生徒・保護者との三者面談を通して協力体制を構築し、生徒の学力の定着と伸長を図る。
 - カ 総合的な学習の時間において自ら課題を設定し、調査・研究・発表及び体験的な学習活動を通して言語活動を充実させ、自ら学ぶ意欲を高めるとともに、論理的な思考力や判断力、プレゼンテーション能力の育成を図る。
 - キ 全教科でアクティブラーニング・探究学習を推進する。
 - ク 全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。
- ④ 生活指導
- ア 月1回の朝礼や道徳の授業を通して、規範意識や生活規律を向上させる。
 - イ 生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いに尊重する心を養う。
 - ウ スクールカウンセラー、養護教諭、担任の連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。
- ⑤ 特別活動・部活動
- ア 学校行事や委員会活動、部活動など、高等学校との連携を通して、豊かな人間性とリーダーとして活躍できる資質を育成する。
 - イ 生徒会活動を通して、本校の一員としての自覚と責任感を深めさせる。
 - ウ 3年間毎年実施する宿泊を伴う行事を通して、望ましい人間関係を育てるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑥ 国際理解教育・国際交流の推進
- ア JET・ALTとの交流や3学年における「国際理解」、2学年「国内留学」等の取組を通して、国際社会への興味・関心を高める。
 - イ 国際交流コンシェルジュと連携を取りながら留学生や学校訪問の受け入れを行なう。
- ⑦ 健康づくり
- ア 校内美化を推進し、健康的で安全な学習環境づくりに努める。
 - イ 防災ノートや安全教育プログラム等を活用して、危険を予測し、回避する能力や他者や地域の安全に貢献できる資質・能力を育成する。
 - ウ 養護教諭やスクールカウンセラーとの連携を図り、全校的な教育相談体制の充実を図り、心の病の早期発見を図る。
- ⑧ 食育の推進
- ア 保健体育や技術・家庭科等の授業や給食指導を通して食育の推進を図る。
- ⑨ オリンピック・パラリンピック教育の推進
- ア オリンピック・パラリンピックの歴史や意義を通し、我が国と世界の国々の歴史・文化・習慣などを学ぶ。
- ⑩ 特別な支援が必要な生徒への適切な支援体制
- ア 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を適切に実施する。
 - イ 必要に応じて「特別支援教室」制度を活用する。
- ⑪ 自殺対策に資する教育の推進
- ア 東京都教育委員会作成資料「SOSの出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。

⑫ 80周年記念式典準備委員会の設立

ア 令和4年度実施に向けた校内組織を新規に設立し準備を進める。

⑬ 校内環境の整備

ア 施設の安全管理を徹底する。

イ 自習室や教室でのコートの保管場所等を改善し、学習環境の整備を推進する。

⑭ ライフ・ワーク・バランスの推進

ア 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき学校の業務改善を推進する。

イ テレワークの活用と計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

ウ 日々挨拶とコミュニケーションを積極的にとることにより、明るい職場風土づくりを推進する。

エ 管理職は、毎月、長時間労働者への超過時間の通知と産業医面接の実施により、教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を行う。

⑮ 経営企画室と一体となった学校経営の推進

ア 経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。

イ 施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理と事故防止に努める。

ウ 経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。

⑯ その他

ア 年間を通じた服務事故防止研修会を実施、個人情報の管理、サービス管理、危機管理の徹底を図る。

(2) 重点目標と方策

① 6年間を見通した系統的・組織的な探究活動の推進

ア 高等学校における知的探究活動「探究と創造(QC)」への確実な接続を目指して、中学校段階で新たな系統的なプログラムを実施する。自ら課題を設定するための原動力となる好奇心を高めるために、様々な活動を行なうことで、探究活動の基礎的なプロセス、必要な知識・ノウハウを体系的に習得させる。

イ 各教科における授業・行事等を通して、主体的な学びを行なわせる場面を設定する。

② 6年間を見通した系統的・組織的な進路指導

キャリア教育から進路指導へと6年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

③ 学力のさらなる向上

アクティブラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて教科主任を中心として検討し、6年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム大泉」としての組織的な教科指導力を向上し、生徒の学力向上を推進する。

ICT機器を活用した授業、オンラインでの授業対応を推進することで個人タブレットの活用を図る。

④ 豊かな心と思いやりの心の育成

道徳や学校行事、部活動など教育活動全体を通じて、豊かな心と思いやりの心をはぐくみ、人間性を高める。

4 数値目標

(1) 学習指導

生徒の授業満足度	90%
講習満足度	90%
定例教科会	12回
教員相互授業見学	3回/年

(2) 生活指導

部活動地域大会以上出場	4部
部活動入部率	100%
行事満足度	75%
校内美化	80%

(3) キャリア教育

校内模試	3回/年
生徒面談	2回/年
三者面談	1回/年
模擬分析会	2回/各学年

(4) 入学選抜

入選倍率	6.50倍以上
------	---------

(5) 広報活動

学校説明会等来校者	3,300組
塾・予備校説明会	12回以上
ホームページ更新	700回以上